

令和5年度家庭教育支援基礎研修会 開催報告

日時 令和5年6月22日(木)14:00～17:00

会場 滋賀庁東館7階大会議室

参加人数 84名（会場 27名、オンライン 57名）

内容 ○情報提供:「滋賀県の家庭教育支援の取組について」
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課員

○講演:「かしこく、元気に、機嫌よく ～地域で支える家庭教育～」
講師: 鈴木 みゆき 氏（國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科 教授）

○グループ別情報交換



当日の様子



【参加者の感想より】

- 鈴木先生の話術にひかれて、あっという間の時間だった。もう一度基本に戻って、脳のしくみから『早寝・早起き・朝ごはん』を伝えていきたいと思いました。その上で、子どもたちが主体的に取り組むことを考えていきたいです。
- 朝ごはんや睡眠など、生活習慣の改善がとても大切であり、少しずつでも実践していこうと思った。その時には、子どもたちと一緒に決めながら、生活リズムを整えることが重要だと感じた。
- いろいろな事例を元に説明していただいたので、なぜ家庭を支援していく必要があるのかについて、よくわかりました。子どもたちの生活改善のためにできることから始めていくという姿勢を持つこと、関係機関と連携していくことの大切さを学びました。
- 生活リズムを整えることや、幼児期への子どもの関わり大切さ、家庭教育が子どもの人生に与える影響の大きさを実感できる内容だった。学校と家庭と地域がともに同じ方向を向いて一つでも二つでも、同じ取組を進めることで、子どもを支えていけるのではないかと、希望を持てる内容だった。
- グループ別情報交換が非常に有意義であった。自校の困り感を共有するだけでなく、その対応策を話し合うことで、即実践してみようと思う取組が見つかった。
- 様々な立場の方のお話を伺うことができた。地域の方が、地域の子どもたちを思って動かれている姿に感銘を受けた。
- 今後も、多様な方々や地域と学校の連携のつなぎ役として信頼関係を深め、子どもたちのために励みたいという意欲を一層高めることができました。
- これからの学校は、地域との連携がさらに必要となってくる。地域の人材や他機関との連携を密にして学校運営を進めていきたい。
- 「人間関係づくり」「地域・関係機関・専門家等を巻き込む」「科学的視点(脳・睡眠)から学ぶ」の3つを常に意識して取組を進めていきたい。子どもたちが主語となる計画を立て、子どもたちが安全で安心な生活を送ることができるよう、今後も研鑽を深めていきたい。



訪問型家庭教育支援とは？

学びの場や相談の場などに出向くことが難しい家庭を訪問して支援を届け、保護者への支援を通じて子どもの育ちを支えるアウトリーチ型の家庭教育支援活動です。

具体的な取組内容

- ①保護者からの相談への対応
- ②保護者に対する情報提供
- ③専門機関への橋渡し

訪問の目的は、届ける支援を必要とされている家庭との「つながりづくり」です。会話や交流を通して顔の見えるコミュニケーションづくりを！

◎訪問型家庭教育支援の主な役割

- ①家庭の孤立化を防ぎ、問題の発生予防や早期発見につなげます。
- ②保護者の話を丁寧に聞いて、悩みや不安を解消します。
- ③保護者が学びの場などの拠点につながるよう支援します。
- ④必要に応じて、関係諸機関の支援につなぎます。

